

地域に内在し世界を構想する JCAS Review

地域研究 Vol. 12 No. 2

総特集 | 地域研究方法論

山本博之 / 遅野井茂雄 / 油井大三郎 / 国分良成 / 高橋五郎 / 宮崎恒二 / 脇村孝平 / 酒井啓子 / 白杵陽
峯陽一 / 島田周平 / 森井裕一 / 庄司克宏 / 家田修 / 伊東孝之 / 中村安秀 / 井上真 / 柳澤雅之 / 田原史起
小森宏美 / 久保慶一 / 西芳実 / 阪本拓人

第一回地域研究コンソーシアム賞 受賞者発表

● 地域研究コンソーシアム / JAPAN CONSORTIUM FOR AREA STUDIES



〔総特集〕地域研究方法論

〔総特集にあたって〕新しい地域研究をめざして

山本博之

006

〔第一部〕大学院で学ぶ／教える地域研究

地域研究方法論——想定外に対応する「地域の知」

山本博之

018

地域研究 現場の悩み三〇問——何を考え、どう伝えるか

038

〔第二部〕地域研究の牽引者たちからのメッセージ

〔中南米〕現代的状況に発言する

遅野井茂雄

064

〔北米〕「場」の多様性を深く考える

油井大三郎

066

〔東アジア〕体制と社会の隙間を観察する

国分良成

068

〔東アジア〕地域理解の上で問題分析

高橋五郎

070

〔東南アジア〕言語の習得から始まる関係

宮崎恒二

072

〔南アジア〕学生寮に国際社会を見る

脇村孝平

074

〔中東・イスラーム〕生きるための謎の解明

酒井啓子

076

〔中東・イスラーム〕常に問われる立ち位置

白杵 陽

078

「アフリカ」 対話と恋愛のすすめ

「アフリカ」 新しい専門知の創出を

「ヨーロッパ」 作法を身につけ、心を込めて

「ヨーロッパ」 個人的関心から社会へ

「東欧・スラブ」 専門化した学問を統合する

「東欧・スラブ」 曲がりくねった道

「通地域」 交じりあうフィールドから

「通地域」 自分ならではの領域を拓く

峯 陽一

島田周平

森井裕一

庄司克宏

家田 修

伊東孝之

中村安秀

井上 真

「第III部」新しい地域研究をめざして

先行研究をどう読むか——東南アジアのナシヨナリズム論を例として

自然科学分野の地域研究——地域情報の限定性を克服するために

「地域を突き抜ける」地域研究——コミュニティの可能性

ヨーロッパ地域研究の有効性と諸課題

デイシプリンと地域研究——比較政治学の視点から

災害・紛争と地域研究——スマトラ沖地震・津波における現場で伝わる知

情報技術と地域研究——コンピュータのなかのアフリカを事例に

山本博之

柳澤雅之

田原史起

小森宏美

久保慶一

西 芳実

阪本拓人

第二回地域研究コンソーシアム賞 受賞者発表

214

198

181

164

149

131

116

098

094

092

090

088

086

084

082

080

地域研究方法論

東西冷戦の終結から二十余年。世界のあり方が大きく変化するとともに、世界の諸地域を研究する地域研究のあり方も大きく変わってきた。世界Ⅱ現場に立脚した地域研究の意義を捉え直し、混迷の時代に道を示す知の技法を探る。

第一部

大学院で学ぶ／教える地域研究

地域研究とは、常に想定外の事態に向き合ってきた学術的営みである。そのことが地域研究の魅力であると同時に、地域研究を学ぶ／教える現場での戸惑いを招いてきた。大学教育の現場の課題を踏まえて、地域研究の広がりと深さを改めて考える。

第II部

地域研究の牽引者たちからの メッセージ

地域研究では研究者と対象地域の関係が常に問われるため、地域研究を語るときには対象への「思い」に触れないわけにはいかない。地域研究の牽引者たちが次世代の地域研究者に伝えたい地域や地域研究への「思い」を語る。

第Ⅲ部

新しい地域研究をめざして

今日では、世界の諸地域について語る上で、専門家とそれ以外の人々の区別が失われつつある。誰もが世界について語れる状況で、地域研究として語るには何が必要なのか。地域研究のそれぞれの現場から考える。

第二回(二〇一二年)地域研究コンソーシアム賞 募集要項

趣旨

地域研究コンソーシアムは、その規約において「国家や地域を横断する学際的な地域研究を推進するとともに、その基盤としての地域研究関連諸組織を連携する研究実施・支援体制を構築することを目的とする。これにより、人文・社会科学系および自然科学系の諸学問を統合する新たな知の営みとしての地域研究のさらなる進展を図る」と述べ、それに続いて、一、共同研究の企画・実施・支援、二、海外研究拠点の設置運営と国際的な共同研究・臨地研究の企画・実施、三、研究成果の国内外への発信・出版、四、地域研究情報の相互活用・共有化と公開という具体的目標を掲げている。

地域研究コンソーシアム賞は、上記の目標を達成する上で大きな貢献のあった研究業績、共同研究企画、そして社会連携活動を広く顕彰することを目的として授与される。

顕彰部門

一、地域研究コンソーシアム研究作品賞……個人ないし共同による学術研究業績で、賞の趣旨に合致する公刊論文ないし図書の作品を対象とする。

二、地域研究コンソーシアム登竜賞……大学院生及び最終学歴修了後一〇年程度以内を目安とする研究者による学

術研究業績で、賞の趣旨に合致する公刊論文ないし図書の作品を対象とする。

三、地域研究コンソーシアム研究企画賞……共同研究企画で、賞の趣旨に合致し、今後の地域研究の動向に対して大きなインパクトを与えたシンポジウムの開催や研究プロジェクトの遂行などの企画を対象とする。

四、地域研究コンソーシアム社会連携賞……学術研究以外の分野で賞の趣旨に合致する活動実績を対象とする。

推薦

地域研究コンソーシアム賞は自薦ないし他薦をもとに選考される。

推薦者は個人に限る。また、推薦書の記載は日本語に限る。推薦者は複数の作品、企画、活動を推薦できるが、同一の作品、企画、活動を複数の部門に重複して推薦することはできない。また、一人の個人または一つの組織について推薦できるのは原則として一つの作品、企画、活動とする。推薦書の様式はとくに定めがないが、以下の各項目を記入すること。

- ① 推薦者の氏名、所属・職名、主な経歴・研究活動業績
- ② 推薦部門（研究作品賞・登竜賞・研究企画賞・社会連携賞のいずれか）

③ 推薦対象の作品・企画・活動の概要……作品の場合は書誌情報と概要、企画の場合は企画の名称と概要、活動の場合は活動の名称と概要。いずれも一〇〇〇字以内(図表等を入る場合、図表等は一〇〇〇字に含めない)。研究作品賞と登竜賞で推薦対象が論文である場合は写しを一部添えること。研究企画賞と社会連携賞への応募では、企画や活動に係わる資料を添付してよい。

④ 推薦理由……一〇〇〇字以内。地域研究コンソーシアム賞の顕彰目的を踏まえた推薦理由。

⑤ 推薦対象と推薦者の関係……他薦の場合は推薦者と推薦対象(者)との関係を明記(とくに、推薦対象の著者ないし代表者と推薦者が親族関係ないし師弟関係にある場合は、その関係の明記)

各部門の推薦対象は以下の通りとする。

一、研究作品賞……前年度(二〇一一年度)及び前々年度(二〇一〇年度)に公開された論文ないし図書の作品を推薦の対象とする。推薦された作品の中から研究作品賞を授与する。

二、登竜賞……大学院生及び最終学歴修了後一〇年程度以内を目安とする研究者によって前年度(二〇一一年度)及び前々年度(二〇一〇年度)に公開された論文ないし図書の作品を推薦の対象とする(「登竜賞」の選考対象には博士論文も含まれる)。推薦された作品の中から登竜賞を授与する。

三、研究企画賞……前年度(二〇一一年度)及び前々年度(二〇一〇年度)に実施された共同研究企画の実績を推薦の対象とする。推薦された企画の中から研究企画賞を授与する。

四、社会連携賞……前年度(二〇一一年度)ないしそれ以前から行われてきた研究以外の活動で、地域研究の発展に寄与する実績を推薦の対象とする。推薦された活動実績の中から社会連携賞を授与する。

選考

審査委員会は地域研究コンソーシアムの委嘱を受けた五名程度の専門家で構成される。

審査委員

家田修、片倉もとこ、田中耕司、中村安秀、毛里和子(敬称略、五十音順)

顕彰

一、年次集会で授賞式を行い、審査委員会による講評、会長による賞状の授与、受賞者による受賞スピーチを行う。
二、『地域研究』誌上で審査講評と受賞対象の概要を掲載することもありうる。

三、地域研究コンソーシアム・ホームページに審査講評と受賞対象の概要を掲載する。

募集

応募締切……二〇一二年五月七日(必着)

『地域研究』刊行にあたって

グローバル化の進む今日、世界の各地は緊密に関連し、また共通の課題に直面しています。その変化や課題が展開されているのは、人々の生きる現場である「地域」です。『地域研究』は、地域の総体的理解を目指す地域研究のフォーラム誌として、世界各地を対象とする多様な研究を結び、地域の視点から問題を提起し、「地域から世界を考える」ことを目標に刊行されます。

『地域研究』は、地域研究にかかわる全国の研究教育機関、研究プロジェクト、学会、市民組織や国際機関などが参加する地域研究コンソーシアム（JCAS）に編集委員会をおき、多様な研究対象地域やアプローチをもつ研究者が協力して編集しています。年2回の刊行はJCAS事務局を担当する京都大学地域研究統合情報センターが行っています。

投稿のご案内

『地域研究』では、特集企画案および個別論文を公募しています。特集企画案は編集委員会で検討し採否を決定します。個別論文は、査読を経たのち、編集委員会で採否を決定します。公募要領および執筆要項などの詳細は、地域研究コンソーシアムのホームページ（<http://www.jcas.jp>）に掲載しています。また刊行担当（journal@cias.kyoto-u.ac.jp）にメールにてご相談いただくこともできます。

地域に立脚した視点から広く「世界」を考える企画・論考を歓迎します。ふるってご応募ください。

『地域研究』編集委員会 (2012年3月現在)

猪口 孝	新潟県立大学
白杵 陽	日本女子大学文学部（委員長）
小森宏美	早稲田大学教育・総合科学学術院
篠崎香織	北九州市立大学外国語学部
西 芳実	京都大学地域研究統合情報センター（刊行担当）
村上勇介	京都大学地域研究統合情報センター
柳澤雅之	京都大学地域研究統合情報センター
山本博之	京都大学地域研究統合情報センター

編集後記

大学院に地域研究を教えるコースができ、地域研究の学位が出されるようになりましたが、その一方で、地域研究は捉えどころがないという声が内外から後を絶ちません。本号は、こうした地域研究への疑問に答えようと、地域研究を教え、学び、行う現場の課題を踏まえて地域研究を「地域研究する」試みです。地域研究に携わる先生方や学生のみなさんはもちろんのこと、私たちが生きる世界の成り立ちと行く末に関心を持つすべての人にぜひお読みいただきたい1冊です。

(刊行担当 西 芳実)

地域研究 Vol.12 No.2

初版発行	2012年3月30日
編集	地域研究コンソーシアム『地域研究』編集委員会
発行	京都大学地域研究統合情報センター 〒606-8501 京都市左京区吉田下阿達町46 journal@cias.kyoto-u.ac.jp http://www.cias.kyoto-u.ac.jp
制作・発売	株式会社 昭和堂 〒606-8224 京都市左京区北白川京大農学部前 電話075-706-8818 / FAX 075-706-8878 振替01060-5-9347 http://www.showado-kyoto.jp

印刷 亜細亜印刷

© 地域研究コンソーシアム『地域研究』編集委員会 2012

Printed in Japan

ISSN 1349-5038

ISBN978-4-8122-1179-3